

Ⅲ 成果と課題

本事業を活用し、県教育委員会内にスーパー食育スクール事業推進委員会を立ち上げ、東伊豆町（稲取中学校）・県立稲取高等学校の事業支援を進めることにより、次のような成果と課題を得た。

1 成果

- (1) 実践校の食と健康・食とスポーツにかかわる取組に対して、各推進委員がそれぞれの立場から助言や支援をすることで、視野が広がり、各校の活動がより充実した。
- (2) 推進委員である栄養教諭、保健センター管理栄養士等が、町内の各関係機関との連携の調整役となったことで、多くの地域の方からの協力や支援を受けることができ、児童生徒への手厚く、きめ細やかな指導が可能になった。
- (3) 推進委員会の協議の中で、実践校のそれぞれの活動を点ではなく、面として捉えることを大切にすることで、目標に迫る生徒の姿を丁寧に検証し、評価することができた。
- (4) 健康機器等で測定したデータを収集し、大学等の協力を得ることで、生徒の体格・体力等の変化を科学的な根拠に基づき検証し、指導の効果を確認することができた。
- (5) 生徒の活動が学校外に広がり、座学では得られない実感を伴った知識等を体験的に学び、食への関心、意識を高めた。
- (6) 学校種間を超えた連携を積極的に推進することで、一人一人の生徒が自身の学びの理解をより確かなものにするとともに、多くの生徒が自己有用感を高めた。

2 課題

- (1) 事業目標に掲げた数値目標の達成度に十分ではない点があり、推進委員会としての実践校への指導助言、サポートに課題が残った。
- (2) 本事業における食育の多角的効果を、成果物や県教育委員会ホームページ等で分かりやすく示し、実践した食育プログラム等を県内に広く情報発信することで、各地域、各学校へ成果の還元をしていく。
- (3) 栄養教諭等の研修会等を通して、本事業の事例発表や意見交換等を行うことにより、各地域での取組の充実、栄養教諭等の資質、実践力向上に結びつける。
- (4) 食育の成果（例：食習慣の改善、体格や運動能力の向上等）は長期的なスパンで追求していく必要があるため、地域・家庭との連携を重視し、継続性、発展性のある指導に取り組む必要がある。